

アーカイブ Data Report NO. 40

(2020年9月11日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

資料の活用と状況(データ)、情報、知識、知恵について ～故深谷哲先生との新幹線の車中での議論を思い出す～

後藤 忠彦 (岐阜女子大学)

古い話になるが、平成元年頃、学会の理事会等で毎月東京へ行く新幹線の車中でフランス語学者の故深谷哲先生(大阪大学)と多様な言葉について、議論(と言うより教えていただいた)をした。

先生は言葉については、大変厳しい方で、かつて中曽根内閣のとき、臨時教育審議会が開催され、その最初の報告に「情報リテラシー」を見出され、この使い方に反対されていた。たまたま、筑波大学での会合の帰りに、当時臨時教育審議会の情報教育を担当されていた坂本昂先生と深谷先生、私の3人が乗り合わせ、情報リテラシーについての議論が大変盛り上がり、使い方の問題点について指摘されていた。

その後の中間報告では、情報リテラシー(情報活用能力)、さらに最終報告では情報活用能力になっていた。

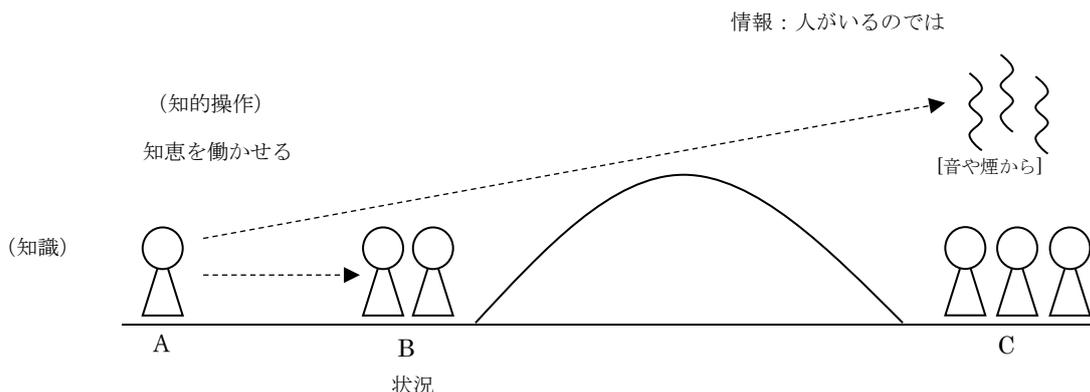
1. 情報：森鷗外の「Nachricht」の訳について

深谷先生は、よく、情報、通信がいつごろから使われだしたか話されていた。通信は古く、中世には朝鮮通信使として通信が使われているが、情報は新しく、対応する言葉としては、報知、知らせなどの言葉が使われていた。また、戦時中は情報が諜報など同様に使われ、あまり良いイメージではなかった。など多様な話に進められた。

(1) 森鷗外の情報(訳)について

その中で、情報という言葉は、森鷗外(1862～1922)の講義の中で「戦争論」(著:Karl Von Clausewitz)で使われている言葉「Nachricht」を情報と訳したのが最初だと言われている。(その前にも使われているとも言われている。)

そこで、車中で深谷先生が情報の説明用に書かれたのが次の図である。



状況 状（意味：かたち、ありさま）…山のこちら側に2人いる。

情報 情（意味：心のもと、おもい）…煙がたっているの、たぶん人がいるのではないか。

（例）情報を受け取ると、「不明」なことが「明らか」になる。すなわち、

不明=あいまいなこと（あいまいさ）。これを表現できれば、情報量として利用できる。

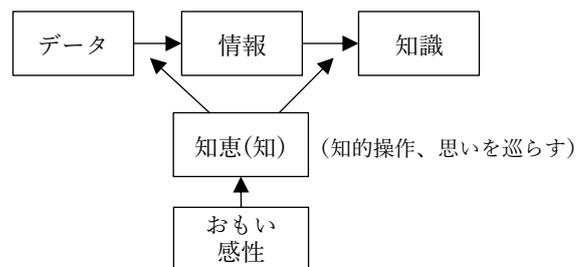
さらに、深谷先生は、状況（データ）、情報、知識、知恵に話が発展した。

（2）データ、情報、知識、知恵の関係

1990年代に深谷哲先生と、明治の文豪 森鷗外の情報・状況等（森鷗外の Nachricht の訳語）について話し合っていたとき、デジタル資料の利用の将来について、データ、情報、知識、創造の視点での取り扱い方、考え方を話していたことを思い出した。その時、深谷先生が次のような図を書き、今後の資料の保管・利用の進め方について議論をした。

深谷先生があまり進歩していないねと笑っているような気がする。もう少し、デジタルアーカイブが発展しないものか考えさせられる。

煙や音、声はデータである。見た人が「煙があれば何か存在する」との知識があるからこそ、知恵を働かせて“煙”を見て、人が居るのではないかと情報としてとらえることができる。

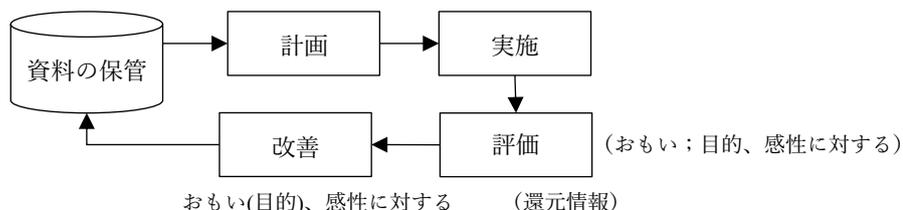


また、喜び、悲しみ、好き、嫌い、快い、美しいなどの感情をどのようにカテゴリー化するか、また、人の念い、思い、想いから行動の目的・目標などをいかにカテゴリー化し取り扱うかまで話が進むこともあった。

（注）本資料は、故深谷哲先生と後藤の話をもとめて、解説したものである。

2. 資料の保管（データベース）とその利活用には、「おもい」（目的）、感性が必要

深谷先生との話はさらに進み、資料の保管とその利活用にあたっては、単なる保管し流通すればよいのではない。利活用には、各活用者の「おもい」（目的）・活用での感性等の条件の検討が必要である。また、メタデータには、これらの条件も保管し、利活用の推進を図るべきとの話まで進んだ。



デジタルアーカイブも還元情報の必要性が言われたし、これに対しては、おもい(目的)、感性に関する情報が重要である。

30年ほど前の議論が、現在のデジタルアーカイブに少し役立ちそうな気がする。